

学校トイレの洋式化整備方針（令和4年度版）

1. 改訂の目的

平成29年度に、市内小中学校に通う児童、生徒のアンケート結果を踏まえて策定した「学校トイレの洋式化整備方針（初版 平成29年度策定）」では、トイレの洋式化100%を目指すものの、和式便器の要望に対する配慮として4・5年の移行期間を設け、学校内に男女それぞれ1基ずつ和式便器を整備する内容となっています。

今年度、移行期間の終了に伴い、現在の社会情勢や、再アンケート調査による児童、生徒の意向の変化を踏まえた整備方針とするため改訂するものです。

2. トイレ洋式化率の推移

	平成29年度 (H30.1.1現在)	令和4年度 (R4.9.30現在)	差異
小学校	40.9%	50.8%	+9.9
中学校	38.2%	46.8%	+8.6
全体	39.9%	49.3%	+9.4

3. アンケートからみる和式便器の需要の推移

①方針（初版）に基づく整備済みの学校（藤沢小・上柴西小・岡部中）を対象

アンケート調査	平成29年度	令和4年度	差異
学校で和式便器を使用する 児童、生徒の割合	37%	よく使う 3%	-25
		たまに使う 9%	

②洋式化未整備の学校（藤沢小・上柴西小・岡部中以外）を対象

アンケート調査	平成29年度	令和4年度	差異
学校で和式便器を使用する 児童、生徒の割合	23%	15%	-8
洋式化整備後も和式便器を 使いたい児童、生徒の割合	12%	9%	-3

4. 整備方針

○洋式化率100%を目指す

方針（初版）の「和式便器の要望に対する配慮として学校内に男女それぞれ1基ずつ和式便器を整備する移行期間」を終了し、**今後は和式便器を設けず、洋式のみを整備していく。**

<理由>

- ① 和式便器による感染症リスクの拡大を防止することができる。
- ② 和式便器のJIS規格の廃止による和式便器の供給減少に左右されない。
- ③ 洋式化整備済みの学校の意見（上記、3-①）より、整備後の和式便器の需要に対する意識変化（減少）が顕著にみられる。
- ④ 未整備の学校の意見（上記、3-②）においても、和式便器の需要に対する意識変化（減少）がみられる。